

地域づくりインターンシップ in三戸町



地域の現状

①位置

青森県の南端（岩手県や秋田県に隣接）に位置し、青い森鉄道や国道4号が通る交通の要衝

②歴史

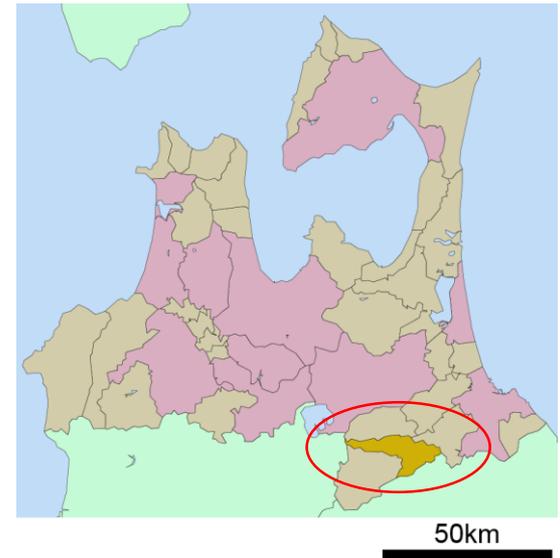
南部氏の居城の地として古い歴史と伝統・文化が育まれてきた

③産業

主産業は、商業や農業（主に水稲・葉タバコ・リンゴ・畜産）

④人口

11,299人（H22国勢調査）



背景・課題

①人口減少

平成22年の国勢調査では、前回調査と比較して7.6%と過去最大の減少幅

②町内産業の振興

基幹産業である農業を軸とした町内産業の活性化と魅力ある産業づくりが必要

③人材交流の推進

交流を推進することで、地域に賑わいをもたらすだけでなく、住民の視野の拡大と新しいものを取り入れる気運づくりが必要



地域づくりインターンシップ事業の実施

インターンシップ内容

受入先 SAN・SUN産直ひろば
さんのへホームステイ連絡協議会

内容

- ①農業体験および農家民泊
民泊先の手伝いをし、産直に並ぶ商品がどのように作られているのかを学ぶ
- ②SAN・SUN産直ひろばでの就業体験
産直における業務を体験することで客層・出荷状況・売れ行きなどの実態を理解する
- ③上記①、②を通じた活性化のための提案
産直の活性化が農業全体や地域の活性化につながるよう
に提案・試作などを行う

一週間の活動内容

1日目

オリエンテーション

2日目

産直で就業体験

3日目

りんごの葉取り

4日目

りんごの葉取り

5日目

産直で就業体験

6日目

報告準備、報告

7日目

町内清掃

産直で就業体験（接客）



農業体験（りんごの葉取り）



清掃活動



発表（活性化のための提案）



交流会



インターンシップでの学び

民泊

- ・農家の方と生活を共にすることで、生産者側の立場に立って考えることができた。
- ・民泊先で三世代の方々と交流することで新たな発見があった。
- ・今後、若い人が農業に関わる機会が減っていってしまう中、身近に農業を学べる手段である。

→農業に関してだけでなく人間性も成長できる

産直

- ・たくさんのお客さんが来ていて、三戸町に欠かせない場所である。
 - ・レジの方と出荷者やお客さん、そしてお客さん同士の会話がみられ、大事なコミュニケーションの場である。
 - ・一方、売り場などに関して改善の余地がある。
- 仕事をする立場に立ったことでその重要性和、さまざまな課題を知ることができた。

実際に体験することで、民泊や産直が三戸町にとって重要な地域資源であることがわかった。

インターンシップを終えて (ホームステイ協議会)

感想

- ・初めての大学生受け入れは不安だったが、とりあえず受け入れてみることにした
- ・1週間という長い期間では食事メニューが一番気がかりだったが、なんとかなると思った
- ・自分の仕事のためその場から目を離していても、効率よく仕事を進めてくれていた
- ・大学生は修学旅行生（中学生）より大人だから、修学旅行生とはできない深い話があった
- ・今回は受け入れることができなかったが、自分の所でもやってみたいと感じた



成果

- ・新規事業に楽しんで取り組むことができ、インターンシップについて、理解が深まった
- ・インターンシップの宿泊受入希望が出た

インターンシップを終えて (産直)

感想

- ・ インターン生から指摘された課題は以前から認識していたが何もできずにいた
- ・ 改善するためには準備も含めて費用と人手と時間が必要だがそれらの確保ができずに難航していた
- ・ 自分たちだけで話し合っているだけでなく、外部の若者から指摘されたことがすごく刺激になった
- ・ これまで作成できなかった商品のPOPづくり等について、できれば非常に満足している



成果

- ・ これまで人手不足のため取り組めなかったことができた
- ・ 課題を外部の視点から指摘されることで、改善の取組にプラスに働いた

インターンシップを終えて (役場)

感想

- ・ 学生をきっかけに共通の話題ができることで、これまで交流の少ない住民同士が話し合える場をつくることができた
- ・ 若い人が組織や地域に入ることによって、活気が生まれた
- ・ 若い人に三戸をPRすることができた
- ・ 初めての取組でも楽しんで取り組むことで、新しいことに取り組む気運づくりに繋がった
- ・ 学生を集めることは、町だけでは大変だと感じるもので、今回のように大学で生徒の募集をしてもらうことは非常に力強かった



成果

- ・ 住民同士の新しい交流の場をつくる事ができた
- ・ 「ヨソモノ・ワカモノ」視点の重要性の再確認ができた
- ・ 新しいことに取り組む前向きな一歩となった

今後の展望

**インターンシップ受入事業を町の事業として
前向きに検討する**

特に重要視すること

- ・ インターンシップ受入を農業や商業などの産業間で協力して受け入れることで、農商連携のきっかけとする
- ・ 「ヨソモノ・ワカモノ」視点による提案・意見を取り入れて、地域全体の活性化に繋げていく